

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教職教育研究センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 本学における教員養成の望ましいあり方という観点から、教育学部との関係を明確化するとともに、同学部との連携を図る。	→教員養成を主たる目的とする、所謂目的学部としての教育学部と、一般学部の教員養成を担当する教職教育研究センターという棲み分けを明確にするとともに、実務面での連携が可能なのは連携を図る。	B
2. 教職課程履修者数の急増と業務内容の多様化による過重負担を軽減するために、早急に上ヶ原キャンパスの教育研究組織の改善と神戸三田キャンパスの格差是正を図る。	→上ヶ原キャンパスに専任教員の増員。また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任事務職員を配属することによる教育研究組織の充実。	D
3. 文部科学省の実施視察に向けて、教職課程の全学的・組織的な指導体制を強化する。	→センター評議員会等、教職に関する全学的協議体の活性化（本学における教員養成の望ましいあり方や教職教育研究センターと教育学部との関係等について全学的立場から検討する機会を設ける等）と、学長府との連携の強化（定期的な情報交換の場の設定等）による全学的・組織的指導体制の整備。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

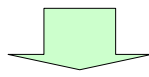
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 実務的には、機会があるごとに教育学部の担当（教員、事務）と連絡調整を行いながら、処理に当たっている。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 専任教職員の増員は、実現されていない。現在、関西学院大学の教職教育体勢はどうあるべきかを、副学長の下で検討する体勢の構築が進められている。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	教育学部生については教育学部において適切な教職指導を進めている。
★小項目4.0.2	5月の学部長会において、教職教育の全学体勢の構築のための検討委員会の設置が提案された。
その他	



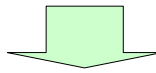
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	教育学部との連絡をより密にとり、業務分担の明確化を図る。
★小項目4.0.2	教職教育に対する認識を全学的に再確認するように進める。加えて、専任教職員（任期制、嘱託等を含む）の増員を図る。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	関西学院大学としての教員養成は、どうあるべきかという視点から、教育学部との関係を整備する必要がある。
★小項目4.0.2	教職課程に係わる教員と、そうでない教員との間で、教職課程についての認識の差が大きい。教職課程が全学的な課程であることを全構成員が認識する必要がある。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	教職教育体勢の検討委員会において全学的な体勢の構築を行い、全構成員に対して教職課程への再認識を行ってもらう。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	2013年度の教育学部再編までに、関西学院大学における教職課程のあり方を根本から整理し、本学が輩出しようとしている教員像を明確にし、教職教育体制の再構築を図ることが必要である。その際に注意すべきことは、教育学部だけが教員養成を行うのではなく、文部科学省が示しているとおおり、センターが中心となって、全学的な取り組みとして教員養成を行う必要がある。そのために、専任教職員の増員を図る。
----------------	---

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 「教職課程に係わる教員と、そうでない教員との間で、教職課程についての認識の差が大きい」ということが改善すべき事項として記載されていますが、現状を表していると言えます。かかる状況の解消のためには、当該センターの存在意義や役割を全学が周知することが必要でしょう。
- 教育学部との棲み分けに関する指標の提示が必要でしょう。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★教育学部との連携・役割分担については、学長の下に設けられた「関西学院大学教職教育体制検討委員会」での全学的な体制の策定を待つ、具体的な方策を検討する。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

--	--

<個別的な指標>

--	--